

4 研 修

当研究所は、農林水産省の養成研修の一つとして、農林水産省における経済関係行政の企画にあたるべき職員の養成を目的とする経済関係企画職員研修を、大臣官房秘書課長の委嘱により実施している。この研修は、昭和25年に農林事務次官の要請によって開始し、平成14年度は56回を数えるに至っている。研修期間は平成14年4月22日から同年9月6日までの4か月半の間行った。今回の全課程を修了した研修受講者1名を加えて、本研修の修了者は676名である。

研修の運営は当研究所に委任されており、当研究所では研修委員会を設けて、教科課程その他運営の大綱に関する事項を審議・検討し、実施している。

(1) 研修生

研修生は、原則として国家公務員 種採用試験による職員で、概ね4、5年の実務経験を有し、近い将来において経済関係の企画行政に当たるべき者として、各部局長が推薦した者の中から大臣官房秘書課長の選考を経て決定された者である。しかし、本年度は本省からの全期間の研修参加者はなく、コ－ス制の参加者のみであった。

なお、昭和29年度（第8回）以降は農林中央金庫から、昭和40年度（第19回）以降は農林漁業金融公庫から、平成8年度（第50回）から全国共済農業協同組合連合会から参加者を受け入れており、本年度は1名の参加者があった。また、昨年度に続き都道府県職員を対象とした短期研修を行なった。

(2) 個別研究及び助言者

本研修の特色の一つとして、研修生に個別研究課題をもたせ、助言者（当所研究職員）の指導のもとに研修修了時までに各自論文をまとめることとしている。今回の研修生の論文は『第56回研修報告』に収録した。助言者は、研修生の個別研究の課題を考慮しつつ、当所の研究職員のなかから委嘱することとしている。第56回研修生の氏名・所属部課・個別研究課題及び助言者は次のとおりである。

氏 名	所 属	個 別 研 究 課 題	助 言 者
神崎 智由	農林漁業金融公庫 人事部付	和牛繁殖経営の現状と展望——大隅半島における事例——	小野 智昭

(3) 講義及び演習

第56回研修は、基礎講義・演習9課目71回、応用講義・演習24課目59回、特別講義1回の講義及び演習を行った。その内容は次のとおりである。

課 目	講 師	時間数
《基礎講義・演習》	(○は所外)	
経済学 of 思想と理論	○伊藤 誠	16
近代経済学 (マクロ経済学)	○金子 昭彦	24
〃 (ミクロ経済学)	○松村 敏弘	24
金 融 論	○大倉 正典	10
農業経済学	○宇佐美 繁	12
〃	○生源寺 真一	12
統計学 (統計理論・演習)	○稲葉 弘道	22
国際経済学	○馬場 宏二	10
財 政 学	○三井 清	12
《応用講義・演習》		
経済政策論	○伊東 光晴	8
日本経済論	○長岡 貞男	16
戦後農政史論	○岩本 純明	8
消費者問題と法	○本城 昇	4
フードシステム論	○高橋 正郎	6
森林経済学	○加藤 隆	4
水産経済学	○中西 孝	4
環境・公共経済学	矢部 光保	4
政策評価の理論と方法	○山谷 清志	4
環境評価と費用便益分析	吉田 謙太郎	4
現代農政論	堀越 孝良	2
現代農業経済概論・農政論	嘉田 良平	12
〃	橋詰 登	
〃	相川 良彦	
〃	江川 章	
〃	千葉 修	
〃	小野 智昭	
食品産業論	薬師寺 哲郎	4
フードシステムと農産物流通	小林 茂典	4
国際農産物貿易	千葉 典	4
E U 農 業		
フランス農業	石井 圭一	2
ドイツ農業	市田 知子	2
アメリカ農業	立川 雅司	4
旧ソ連地域農業	野部 公一	2
中 国 農 業	白石 和良	4
開発途上国農業	井上 莊太郎	2
農業問題懇談会	香月 敏孝	2
〃	吉井 邦恒	
農 協 問 題	○両角 和夫	4
農 協 概 論	○両角 和夫	4
農 業 金 融 論	○楠本 雅弘	4
《特別講義》		
農政・農業講話	篠原 孝	2

(4) 現地実態調査

現地実態調査は、本研修の主要な構成要素の一つであり、農林水産業の実態について認識を深め、農林水産行政の課題等を理解する目的で、毎年実施している。本年は全研修課程を受講し、研修論文の執筆を行う研修生が1名であったので、研修論文の執筆に必要な調査を出張という形で行った。研修論文の構想を練り準備を進める段階で、自主的に調査地を決めて準備のうえ実行した。

(5) 研修報告

以上の研修成果をとりまとめた『第56回研修報告』を発行した。本報告書に研修業務総括報告、研修受講に関した研修生の感想、意見、反省及び個別研究論文を収録した。